

移動理由アンケート令和3年3月から12月までの集計結果について

【移動理由アンケートとは】

- 移動理由アンケートは、令和3年3月から県内全21市町と連携し、転入・転出手続の際に、窓口で実施している県独自の調査
- 移動理由アンケートは、転入・転出の理由等を把握するものであり、これまで推測していた内容を客観的なデータで確認・分析が可能

【主な調査項目】

- 移動の理由：就職、転勤、転職、退職、進学、結婚 など10区分
- 移動先の勤め先業種：製造業、情報通信業、医療業、福祉業、公務（自衛隊）、公務（自衛隊以外） など13区分
- 県外転出の背景（転出票）：都会への憧れ、知識や技能を活かしたい など8区分
- 長崎県出身か否か（転入票）：長崎県が出身地か、県外が出身地か

【集計結果概要】

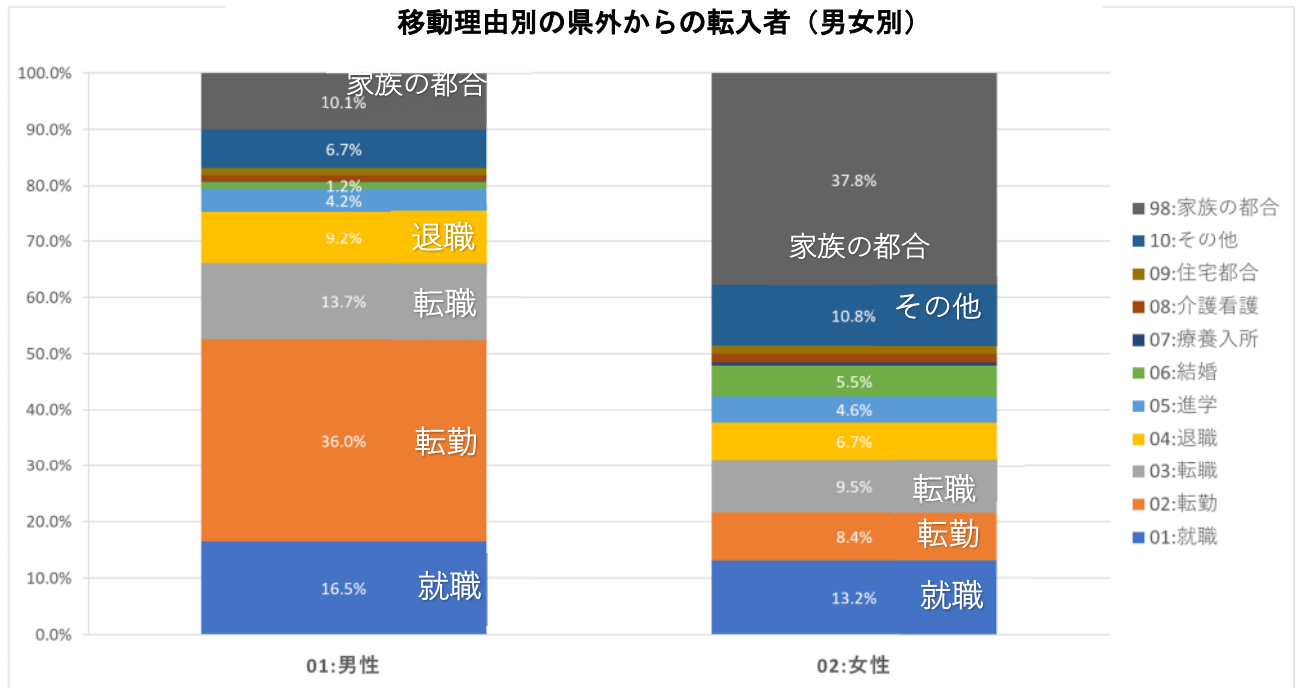
- 令和3年3月から12月の移動理由アンケートの集計者数は、転入で14,907人、転出で13,411人であり、住民票の移動者数に対する回答率は、転入で39%、転出で30%という結果となった。

区分		移動実数 ※長崎県異動人口調査から	アンケート集計者数	回答率
県外	転入	20,368	5,594	27%
	転出	26,457	7,250	27%
県内	転入	17,899	9,313	52%
	転出	17,821	6,161	35%
総数	転入	38,267	14,907	39%
	転出	44,278	13,411	30%

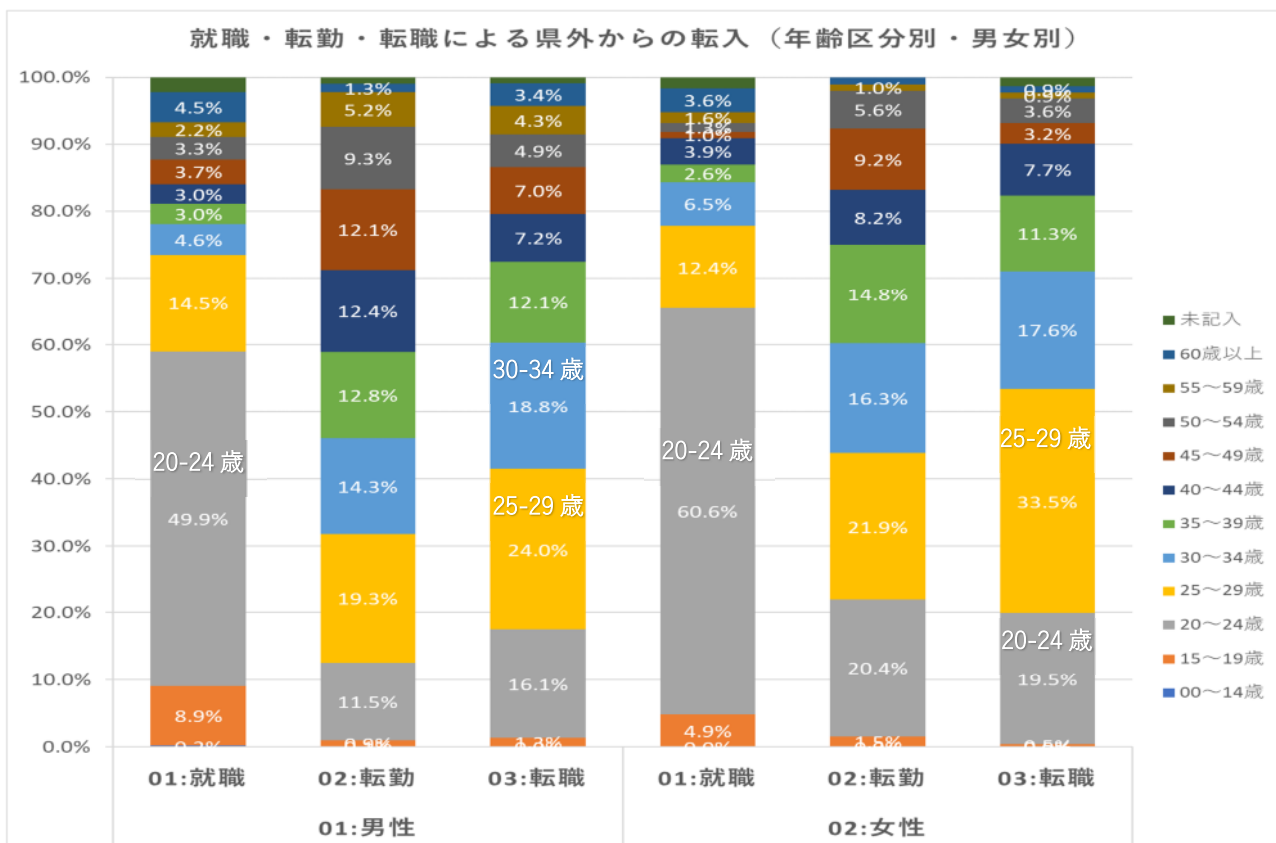
1. 移動理由別の県外移動者（男女別、年代別）

【転入】

男女別にみると、男性は「転勤」が最も多く、次いで「就職」、「転職」、「家族の都合」、「退職」の順、女性は「家族の都合」が最も多く、次いで「就職」、「その他」、「転職」、「転勤」の順となっている。



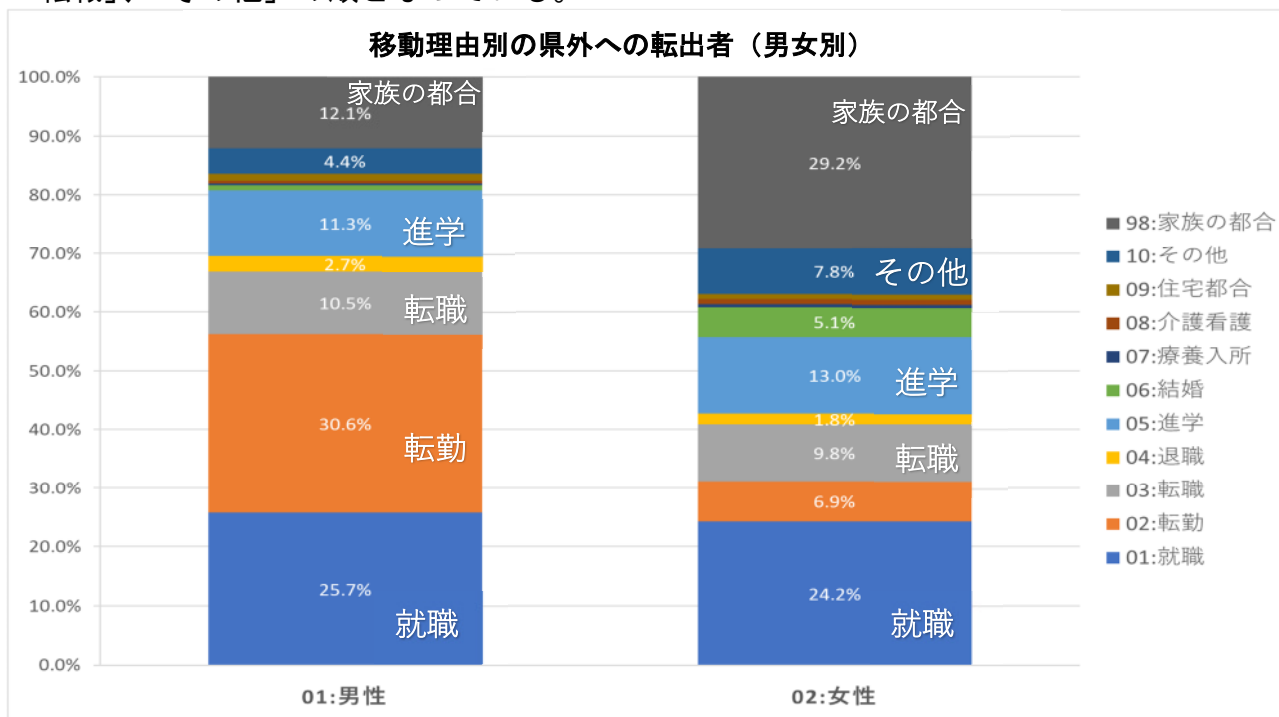
年代別にみると、「就職」は男女とも 20～24 歳の区分で最も多く、男性では就職による転入の約 5 割、女性では約 6 割を占めている。「転勤」は男女とも各年齢で一定の割合が存在している。「転職」では男女とも 25～29 歳の区分で最も多く、次いで男性は 30～34 歳、女性は 20～24 歳となっている。



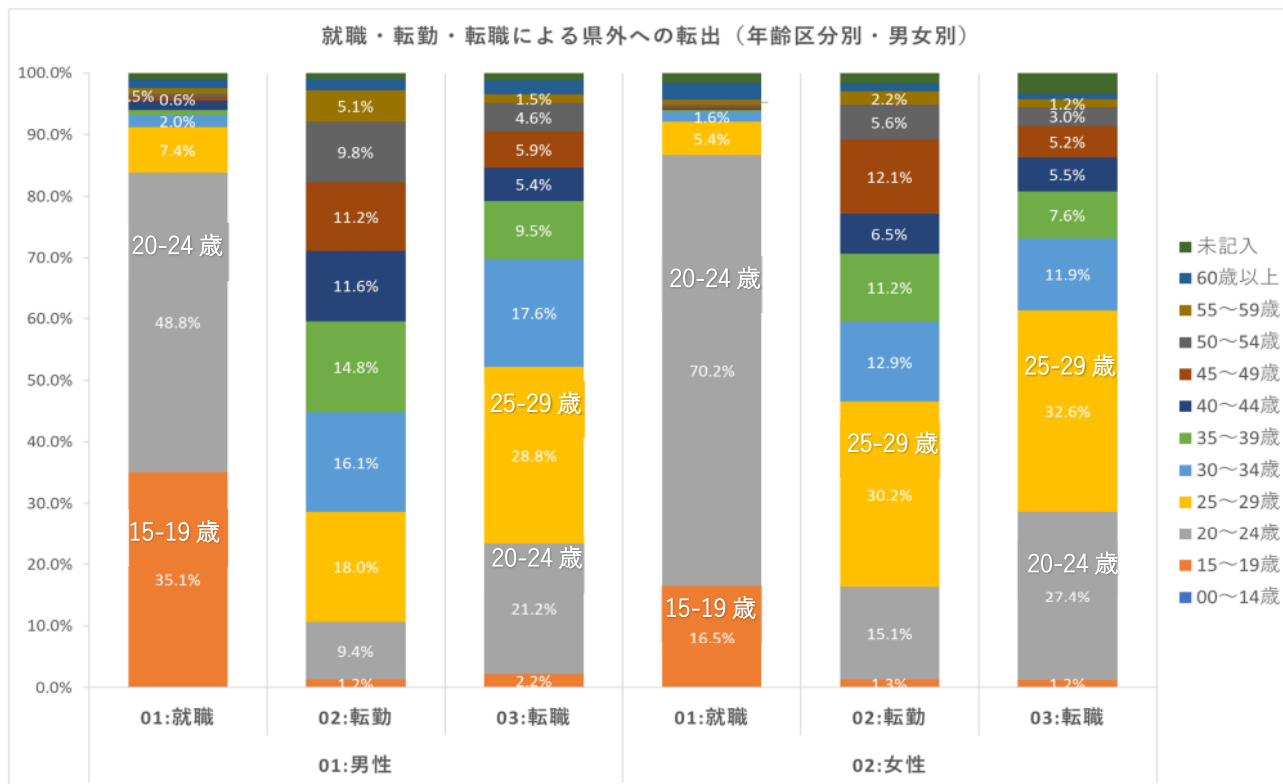
「男性・就職・20～24歳」の割合50.0%を49.9%に修正（令和4年12月28日修正）

【転出】

男女別にみると、男性は「転勤」で最も多く、次いで「就職」、「家族の都合」、「進学」、「転職」の順となっており、女性は「家族の都合」で最も多く、次いで「就職」、「進学」、「転職」、「その他」の順となっている。



年代別にみると、男性の「就職」は20～24歳の区分で最も多く、次いで15～19歳の区分となっており、15～24歳の年齢区分が「就職」による転出の約8割を占めている。女性の「就職」は、20～24歳の区分で最も多く、次いで15～19歳の区分となっており、15～24歳の年齢区分が就職による転出の約9割を占めている。「転勤」は男性では各年齢で一定の割合が存在しているが、女性は25歳～29歳の区分がやや多い。「転職」では男女とも25～29歳の区分で最も多く、次いで20～24歳の区分となっている。

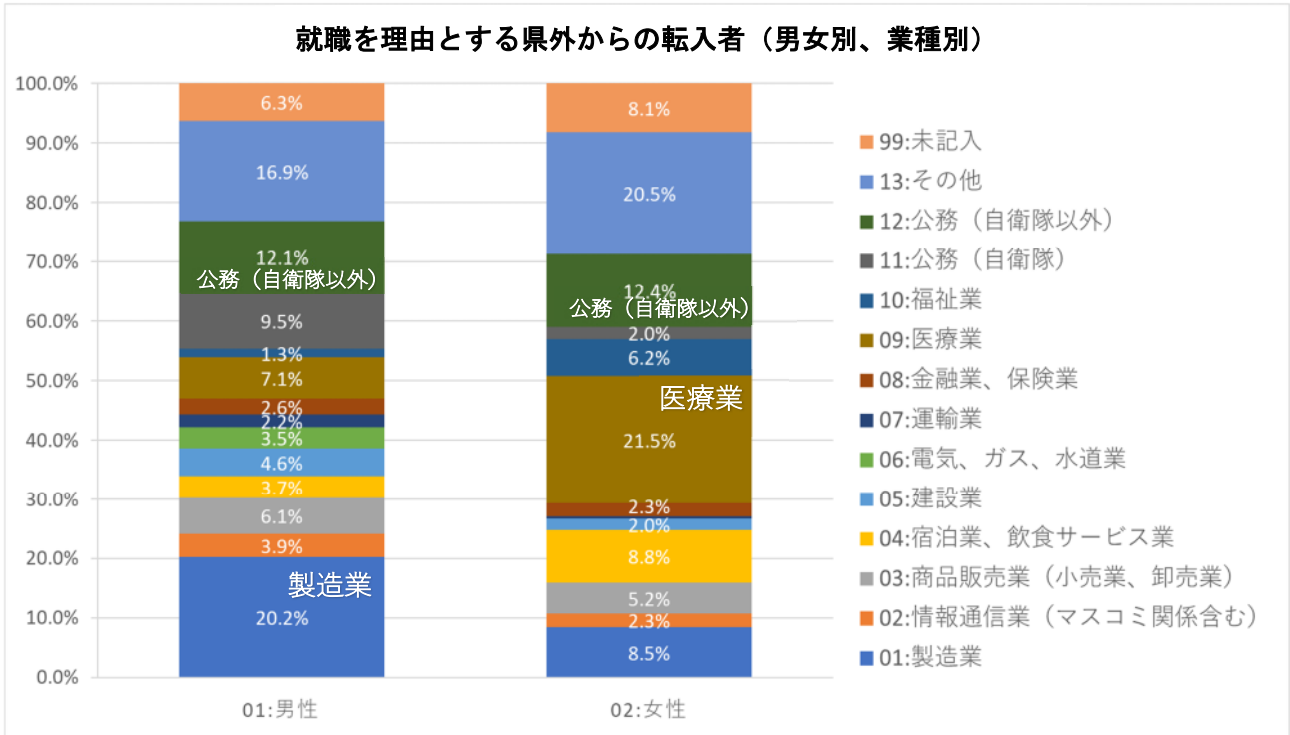


女性は転入・転出ともに「家族の都合」での移動が3～4割を占めていることから、配偶者の仕事の都合などに影響を受けていることが伺える。

2. 「就職」を理由とする県外からの転入者・県外への転出者（男女別、業種別）

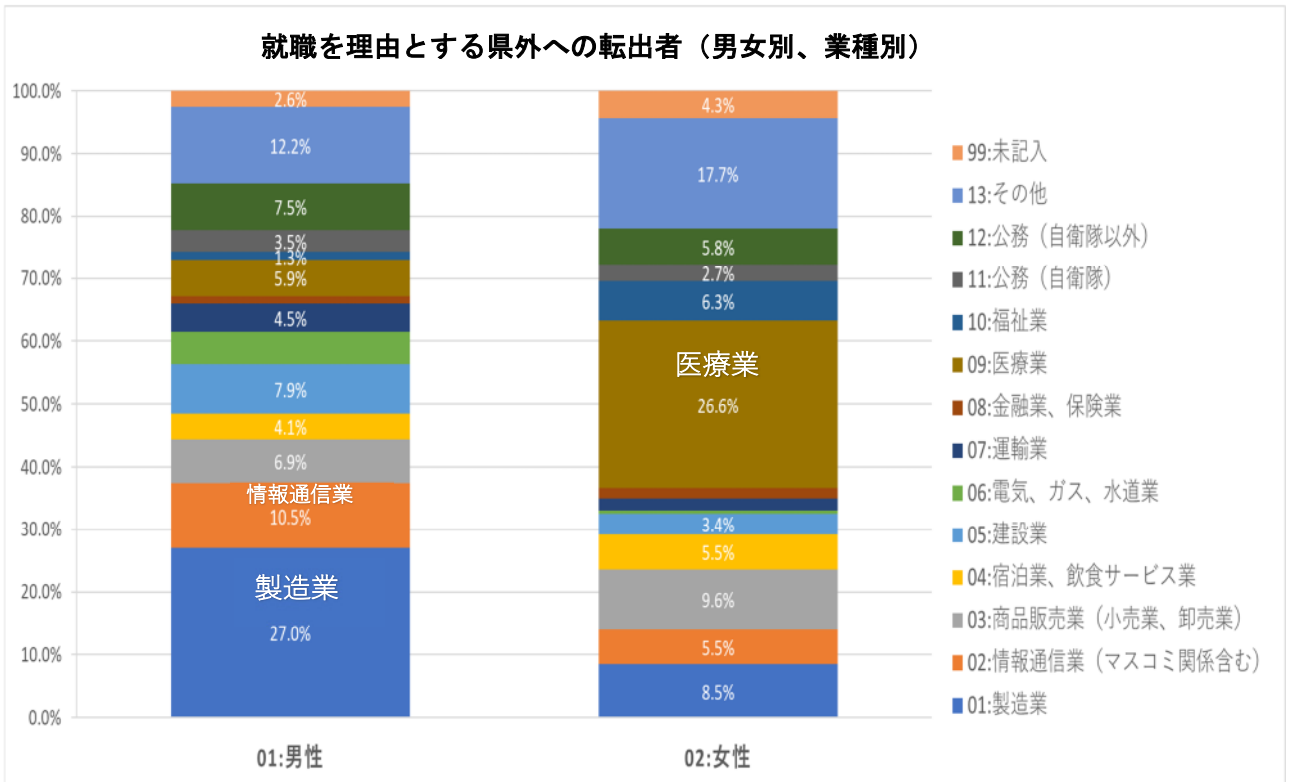
【転入】

男性をみると、「製造業」が最も多く、次いで「公務（自衛隊以外）」となっている。
 女性は、「医療業」が最も多く、次いで「公務（自衛隊以外）」となっている。



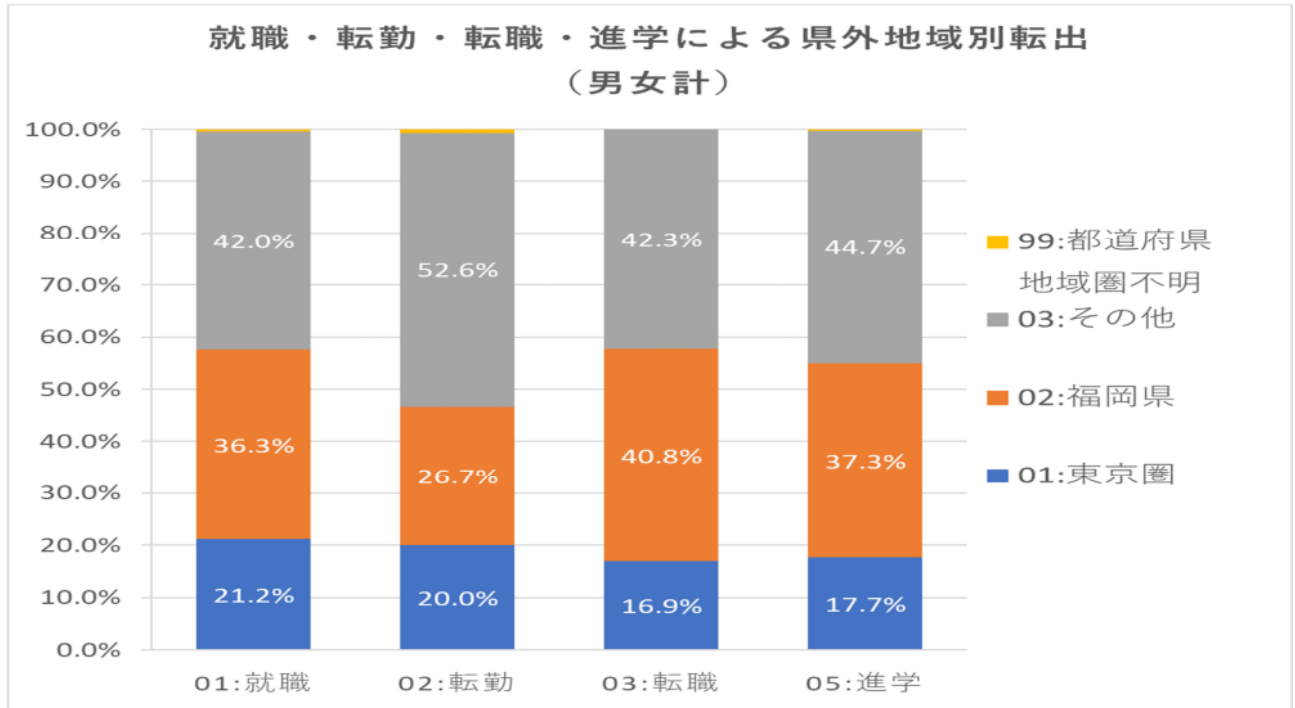
【転出】

男性をみると、「製造業」が最も多く、次いで「情報通信業」となっている。
 女性は、「医療業」が最も多く、他は多種多様となっている。

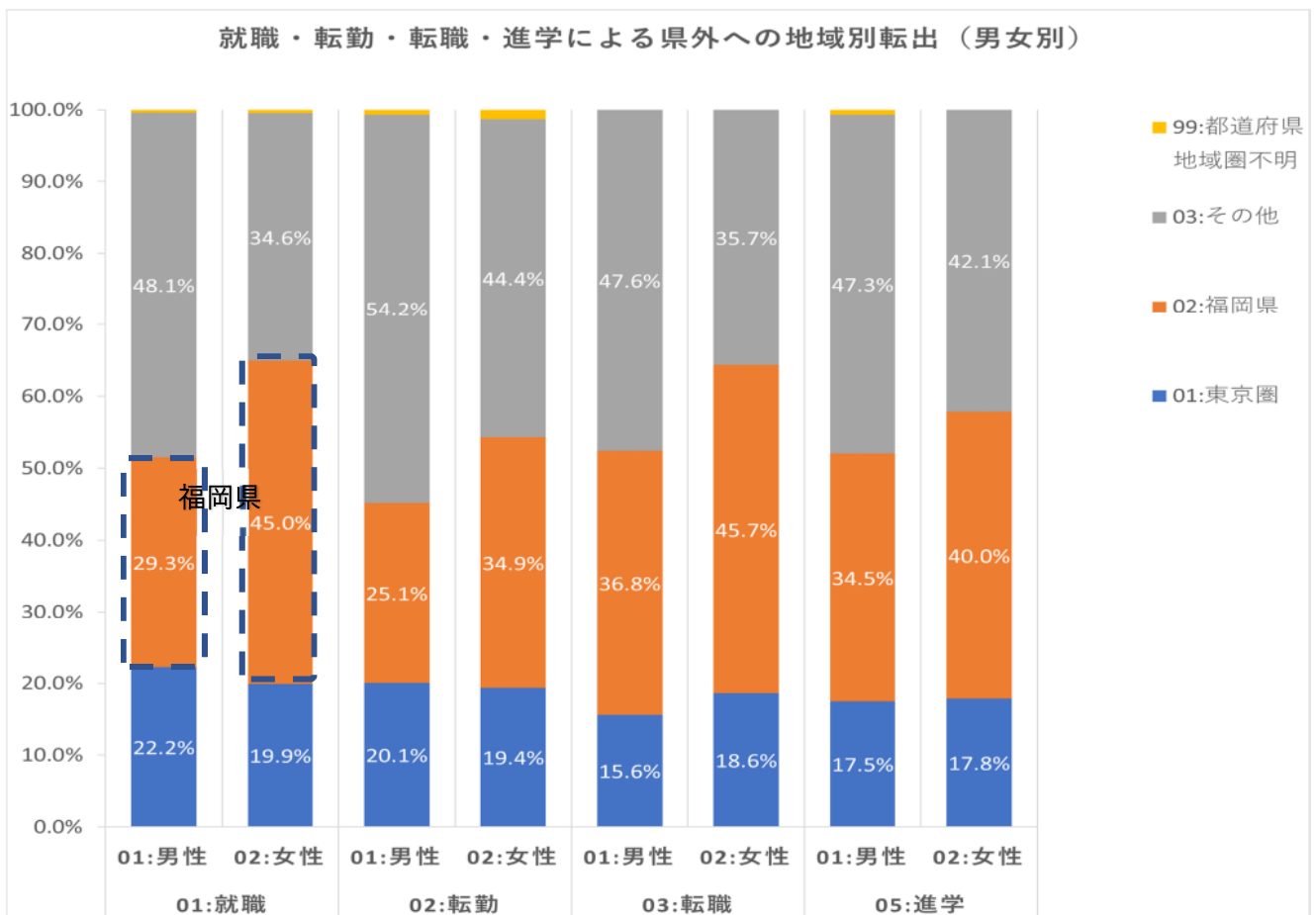


3. 移動理由、転出先地域別県外転出者

県外への転出について、転出先の地域を見ると就職、転勤、転職、進学など大半の移動理由区分で、東京圏（東京、神奈川、埼玉、千葉）及び福岡県で5割程度を占めている。



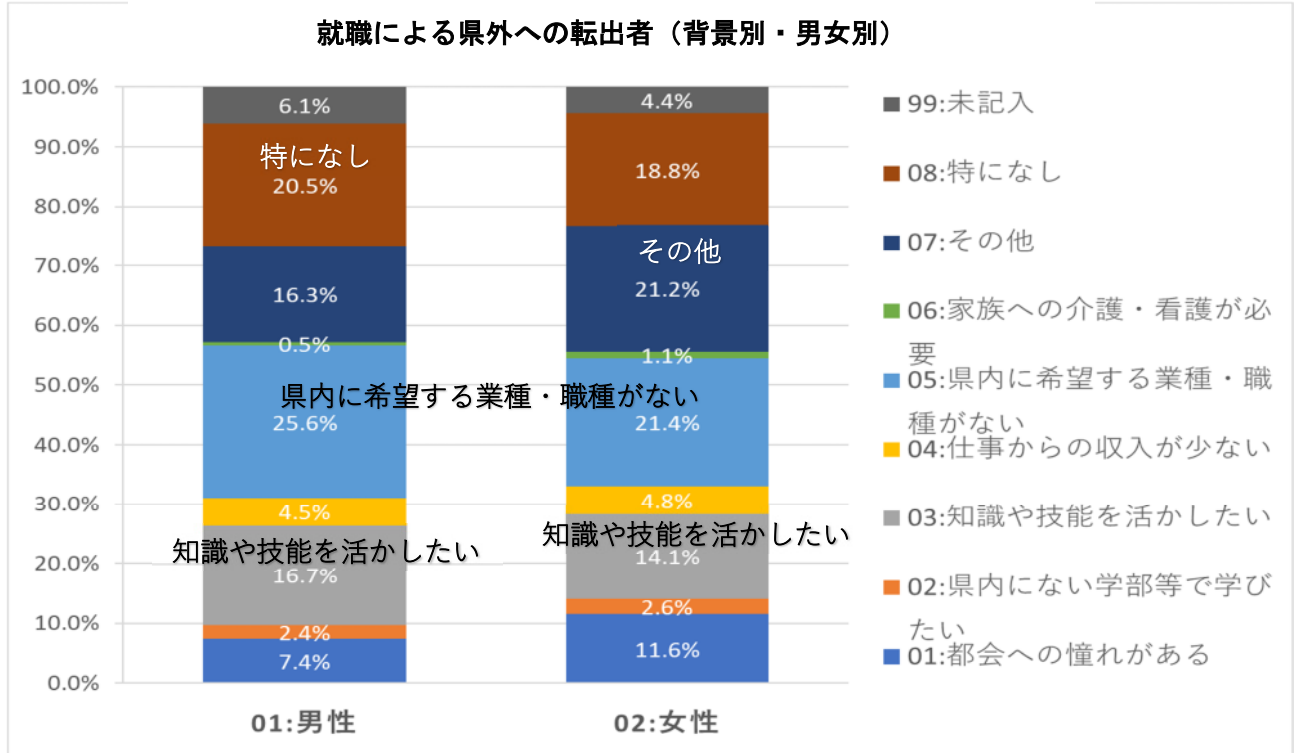
男女別に見ると、女性が福岡県へ転出する割合が男性に比べて高く、特に就職による転出において男女差が大きい。



4. 移動理由、転出の背景別県外転出者（男女別、年代別）

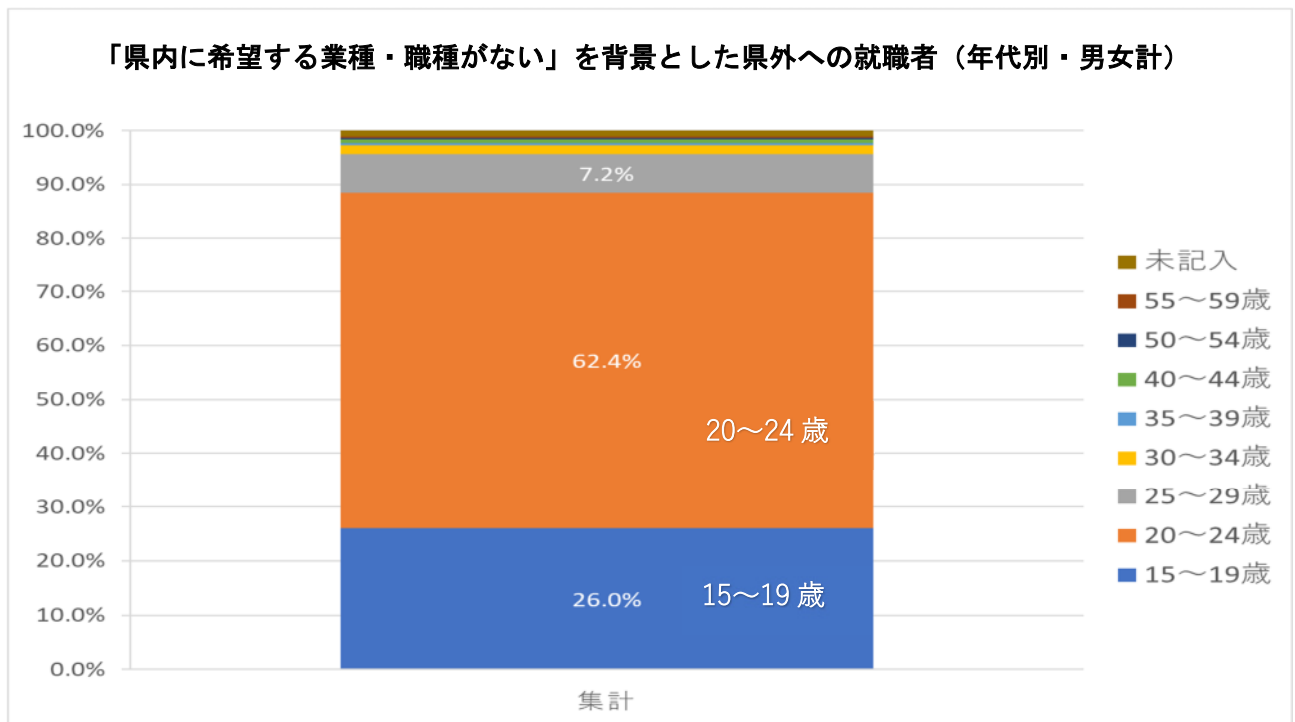
【就職】

男女別にみると、男性は「県内に希望する業種・職種がない」が最も多く、次いで「特になし」、女性は「県内に希望する業種・職種がない」が最も多く、次いで「その他」となっている。



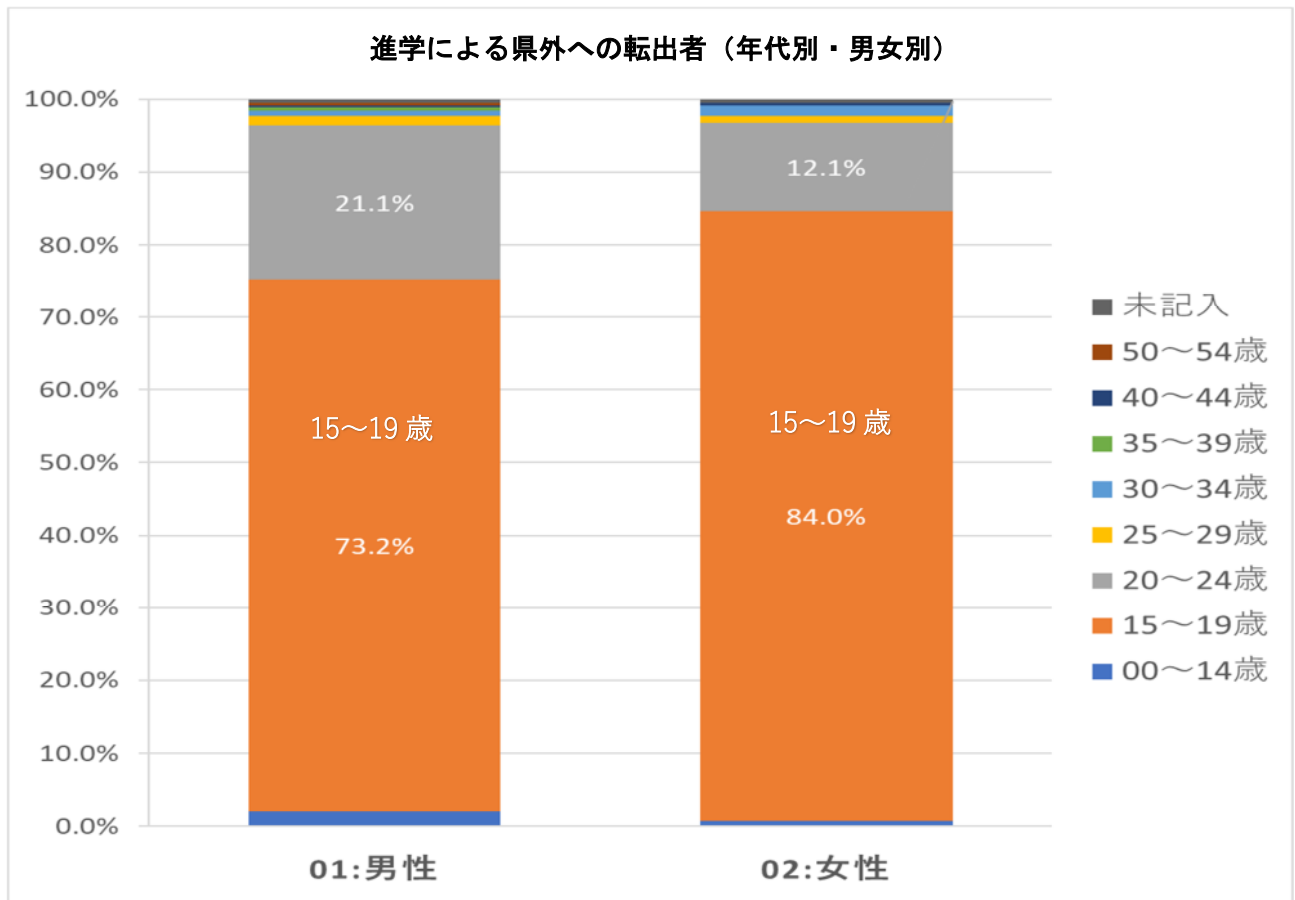
年代別にみると、男性・女性ともに「県内に希望する業種・職種がない」は15～24歳の区分で最も多く、その区分で、全年齢階級の約9割を占めている。

また、男性・女性ともに、「知識や技能を活かしたい」も一定割合存在している。

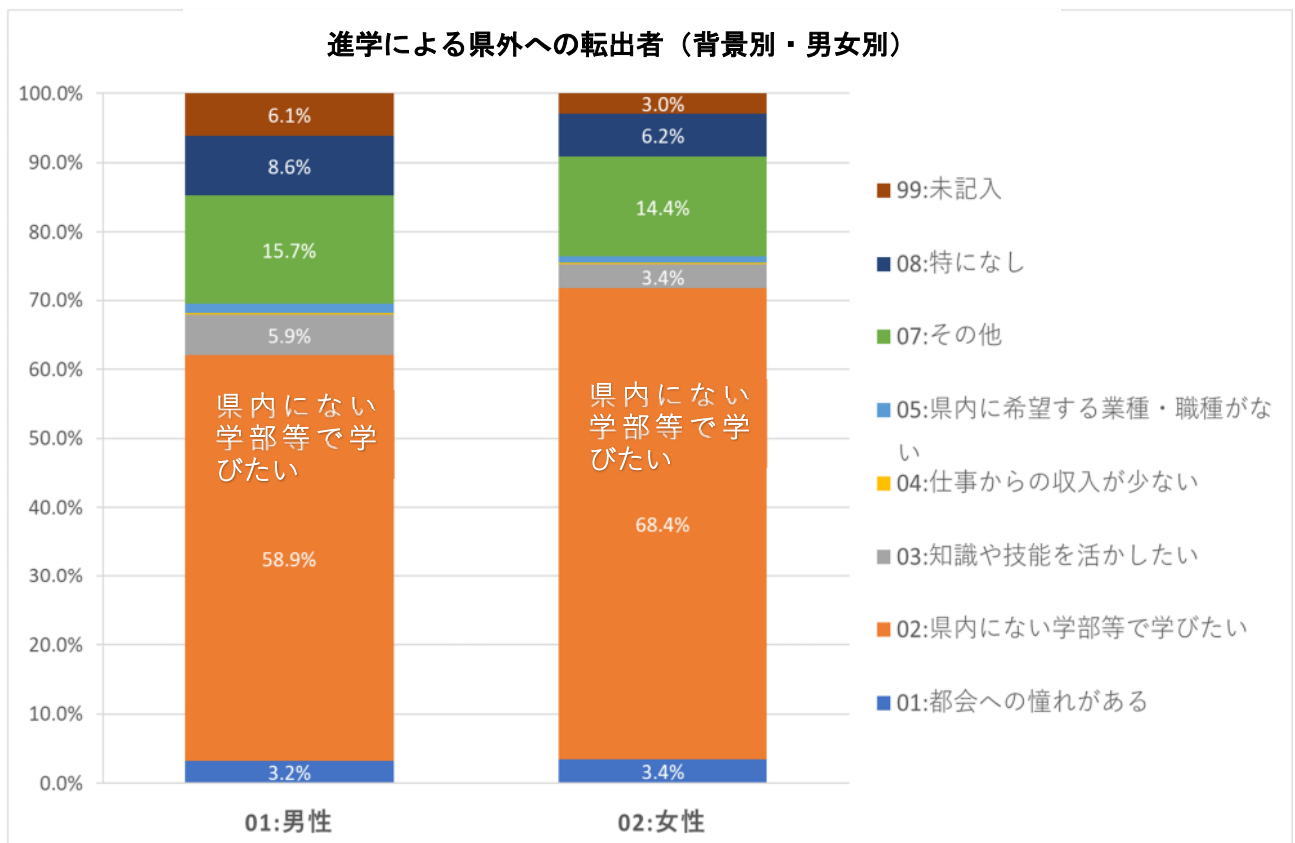


【進学】

進学による転出を年代別にみると、男性・女性ともに15歳～19歳の区分で最も多く、男性で約7割、女性では約8割と大半を占めている。

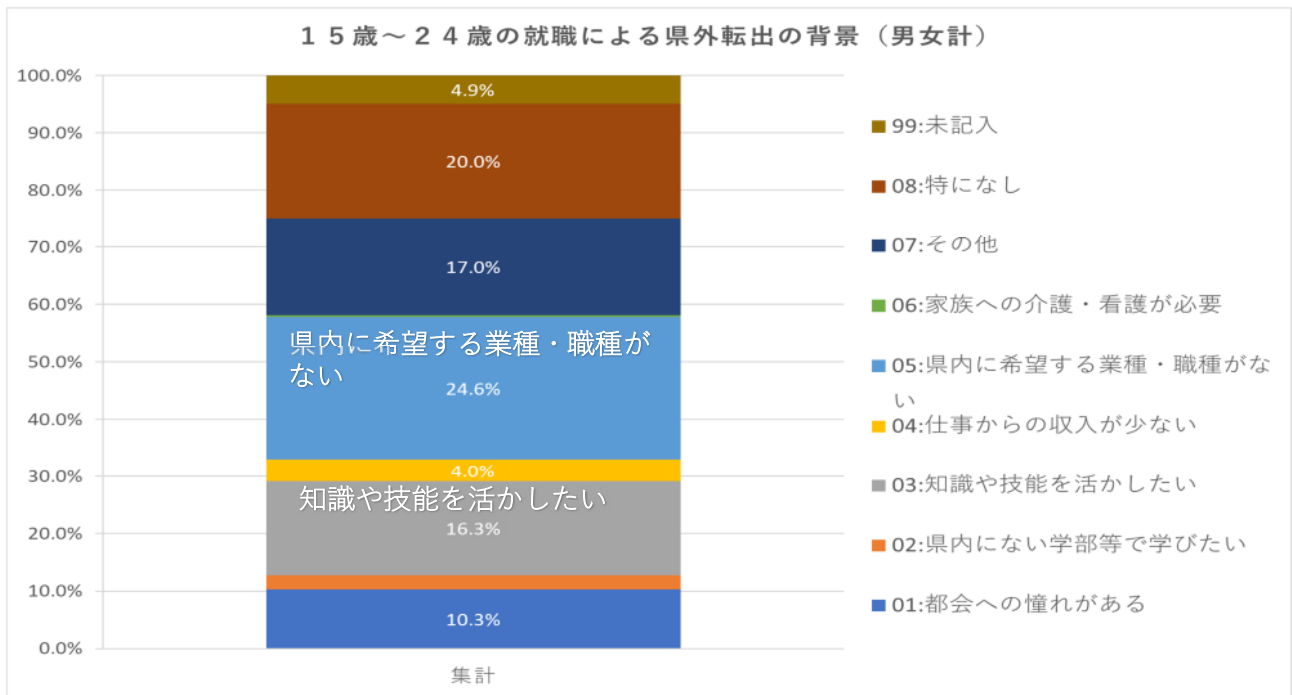


男性・女性ともに「県内にない学部等で学びたい」が最も多く、それ以外の背景は多種多様となっている。



5. 「就職」を理由とする15～24歳の背景別県外への転出者

就職を理由とする男女計で15～24歳の県外へ転出する背景をみると、「県内に希望する業種・職種がない」と「知識や技能を活かしたい」で約4割を占めている。



男女別にみると、男性は「県内に希望する業種・職種がない」が最も多く、次いで「特になし」、「知識や技能を活かしたい」の順となっている、

女性は、「県内に希望する業種・職種がない」が最も多く、次いで「その他」、「特になし」の順となっている。「知識や技能を活かしたい」と回答している女性も一定割合存在している。

